令和５年度　第１回四万十市産業振興計画フォローアップ委員会結果概要

○日　時　：令和５年10月24日（火）　14:00～16:20

○場　所　：市役所本庁舎３階　防災対策室

○出席者　：20名（別紙出欠表のとおり）

○配付資料：【資料１】産業振興計画フォローアップ委員会資料
【資料２】産業振興計画アクションプラン進捗管理シート
【資料３】産業振興計画KPI一覧（Ver.２）

＜結果概要＞

１　開会

２　会議成立報告

欠席委員の紹介をし、委員25名中20名の出席があり、会議が成立していることを報告
委員長あいさつ

３　協議事項

（１）四万十市産業振興計画の進捗管理について

①四万十市の産業状況等について

事務局から資料１により、四万十市の「人口動態」や「産業状況等」について説明

≪会議の概要及び主な意見等≫

（委員長）ただ今、四万十の産業状況について説明がありました。いつも、委員の皆さん全員に会が終わるまでに、ご意見・ご質問をいただきたく慣例の進行になりますが、ここで、ご意見いただきたいのは、Ａ委員、最近の状況についてはいかがでしょうか？

【有効求人倍率について】

（Ａ委員）有効求人倍率が全国的に右肩下がりで、四万十の方では、１倍を割り込む0.8倍ちょっとで移行しているということですが、１倍を超えるのが良いのか悪いのかというのは、またありまして、１倍を超えるというのは、人出不足で企業さんが困っておられるということです。人を雇いたくても人が足らない、100募集かけても人が50人しか集

まらないというのが求人倍率２倍という状況ですので、決して１倍を超えたから万歳ということではありません。

四万十市の状況ですが、求職者の数は、ほぼ変わらず 1300 人前後で推移しています。求人倍率が下がった原因は、募集がずっと下がっているという認識でかまわないと思います。では、なぜ下がるのかということですが、ここ最近で顕著なのが、人手不足分野の企業さんからの募集が減っている状況で具体的には、介護・福祉関係の求人がここ１年程、目に見えて減ってきています。

当然、人件費がかかり企業の体力というものもありますので、これまで５人で仕事をしていたのを３人で行うとか、県下全体でいいますと、例えば派遣会社の進出も考えられるのではないかとも思っております。

あとサービス業・接客業の求人も減っています。企業の方に聞いてみますと、５人でやっていたのを３人にするとか、お水などはセルフでお願いするなど、コロナの後、割と人出不足でしたので、今いる人員でという企業努力をしているのかもしれません。求人倍率については、求人数が減っていることが大きな要因であると思われます。

（委員長）ありがとうございました。データだけでは、わからない部分であったと思います。何かご意見・ご質問などありませんか？

（Ｂ委員）私の会社もサービス業の清掃業をやっておりますが、中々、人を募集しても来ず、来ても高齢者の方が最近多い状況です。70 歳代くらいの方が多いと思うのですが、年齢別の求人などの状況どうなっていますか？

（Ａ委員）県下全体で高齢化は進んでいまして、仕事探しの人も言えます。45 歳以上の方が約６割、55 歳以上の方が４割程度、65 歳以上は 15%程度となっています。先ほど求人倍率が高いというお話をさせていただきましたが、逆に低い職種もございまして、昔でいう雑務、清掃も簡単なものなら入ると思いますが、軽作業をしたいという方が多くいまして求人倍率が低くなっています。軽作業を希望される方は、年齢層が高い方が多く短い時間で体に負担がない仕事をという求人は、幡多地域では、かなり減ってきているというのが実感としてあります。企業の方には、一定の年齢の方の仕事の場を作っていただきたいですし、ハローワークの方へも、ご相談いただきたいと考えております。

（委員長）求人にも、もう少し工夫ができればということでした。その他ですが、金融関係でＣ委員、いかがでしょうか？

（Ｃ委員）金融の状況ですが、幡多の方は、悪いとは思っていません。高知県内の他のところでは、条件変更等が起こっているのですが、幡多の方では起こっておりません。

コロナ前から悪いところは、今も悪く、過剰債務になっていて更に悪い、逆にコロナ前で良いところは、価格転嫁も進んできて良くなってきています。このコロナの影響で悪くなったというよりは、コロナ前から悪いところは、今も悪く、コロナの影響で悪くなってきた部分は、少し持ち直したところはあるのかなと思っております。

(委員長)ありがとうございます。その他、いかがでしょうか？
ないようですので、次のトピックに移りたいと思います。協議事項２の「令和５年度　各産業分野の動き」についてです。事務局から説明させていただき、委員の皆さまからご意見・ご質問をお受けする形で進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。では農業分野からお願いします。

②令和５年度　各産業分野の動きについて

事務局から資料１により、「農業分野」について説明

(委員長) ありがとうございます。農業分野に関するご意見等をいただきたいと思います。
なければ私の方から、資料１の６ページのグラフで農業産出額が 28～30 年までは 40 億超えだったのが、35 億程度に落ち込んでいますが、何か要因があるのでしょうか？

(事務局) すみません。事務局の方で、分析しきれてなく正確には把握できておりません。コロナの関係ではないかと思ってはいます。

(委員長) その辺も踏まえて、お二人の委員からご意見をいただければと思います。Ｄ委員からお話を伺いたいともいます。

【農業分野について】

(Ｄ委員) JA の推進品目と市の戦略品目は、若干、マッチングしていない部分もありますが、ほぼ方向性としては同じです。四万十管内、高知県や全国的にもなりますが、農業分野で一番、困っているのは、燃油と資材の異常な高騰というところがあり、県選出の国会議員の皆さんに再生産可能な価格の実現、法制化をしていただきたいなど、飼料等の高騰により、どの程度、農家の減収になっているかとか示しながらお願いしています。
一般の工業製品は、複数回、同じ製品が値上げされ、大企業等は、コストをそこで吸収し、実績としては最高益を上げる企業が多数ある中、第１次産業の農業の現場は、非常に厳しいものがあります。特に野菜等日用食品については、消費者の方が値上げに敏感であるというところもありますが、このままの状況が続くと集落営農組織の維持や、認定農業者の数が維持できない。また管内の農地の方で、特に広い面積の水稲の生産が継続できないというような非常に厳しい状況で、四万十市だけでなく幡多管内、高知県、ひいては日本全国の状況になっていきます。
今日、お集まりの各産業の方のお知恵とお力もいただきながら、農産物が高いのではないとご理解いただきたいと思いますし、我々としても学校教育の場を含めて色々な形で消費者・公務員の皆様方に農業分野の下支えなどをお願いしていきたいと思います。

(委員長) ありがとうございます。続きましてＥ委員、お願いします。

(Ｅ委員) 農業産出額の減少部分ですが、全体的な傾向として平成 31 年から落ちています

ので、コロナの関係で外食産業を含め、消費が落ちたというところの影響が出ているのではないかと思います。農業関係では、資材、生産コストの上昇が大きな問題になっていて、新規就農者に入っていただこうとしても、一定規模のハウスを建設すると 3,000～4,000 万円かかります。国・県・市からの補助、農協さんの協力があったとしても個人の方で 1,000 万円近くの負債を抱えてのスタートとなりますので、新しく始められる方も非常に厳しい状況で農業をやるかやらないかという岐路にたっています。新規就農者の確保について四万十市は、力を入れていただいていますが、その課題があります。

（委員長）ありがとうございます。資材の高騰が新規就農者の獲得にも影響し始めているという理解でよろしいでしょうか？

（Ｅ委員）はい。

（委員長）特に 1,000 万円の負担とおっしゃられましたので、個人の持ち出しが 500 万円から 1,000 万円に増えるみたいなインパクトがあるということですか？

（Ｅ委員）ここ 20 年ぐらいの感覚でいうと、ハウスの建設費は倍近く上がっている感じがあります。国・県の補助事業も少しずつ拡充はしていますが、個人の方の負担は、倍近くになっているのではないかという風に思います。

（委員長）ありがとうございます。その他、いかがでしょう？よろしゅうございますか？それでは続きまして、林業分野に移りたいと思います。林業分野の説明をお願いします。

事務局から資料１により、「林業分野」について説明

ありがとうございます。では林業分野について、ご意見等をいただきたいと思います。

【林業分野について】

（Ｆ委員）林業の特徴は、長期的に育成していく産業ですので、５年、10 年、あるいは 20 年というようなスパンで、景気の変動であるとか、さまざまな変動に揺るがないような仕組みをどのように作っていくのかというのが、非常に大事ではないかと考えております。人材の育成も、今の景気だとかに関わらなく長期的な視点で担い手を育成していくのが極めて重要になってきているのではないかと思っております。

それから人工林を伐った後、再造林がされないということが、大きな問題になってきており、県全体で４割、中村地域でも森沢の方で、一部、はげ山のまま残っています。非常に目につきますので色々な方が言ってきますが、ああいう形のものを植えていく人材をどう育成していくのかという視点で捉える必要があるのではないかと思っております。

２つ目は、せっかく植えたヒノキが山ほどございます。ヒノキの人工林の蓄積量は、日本で高知県が一番です。高知県で一番が四万十市です。四万十市は、全国でもとんでもないヒノキの蓄積量があり、四万十市の産業の中で、これほど財産がある産業はあり

ません。全国でもこれだけのヒノキがある市町村はないので、どのように活かしてヒノキの産地にしていくのか、問われていると思っています。ヒノキの産地としていくのに重要なのは、ヒノキは建築材料ですから、それだけ価値のある建築物がたくさん出来てこないと、本当の意味での産地ということにはならないのではないかと思っております。

鳥獣害対策にも触れておきたいのですが、一般住民の方は、農作物被害の観点から鳥獣害対策といいますが、林業分野からいうと畑の周りにネットを張られると迷惑で山はシカが出放題となり、ヒノキの根元の皮はぎをして価値が無いようにします。農地だけ守り、山は跳ね放題という状況を作られるのは、我々にとっては、すごく迷惑な話です。

鳥獣害対策についてもう一つ言うならば、最近の被害は、ウサギです。せっかく植えてもウサギに食われるという被害が本当にこの４、５年、目についてきています。森林管理署も、ウサギ対策を今年くらいからやり始めたという状況ですので、ウサギ対策を鳥獣害対策に含める必要があると思っております。

（委員長）ありがとうございます。続きましてＧ委員お願いします。

（Ｇ委員）西土佐村森林組合の場合は、長年、経営不安に付きまとわれ、その場その場の事業で目一杯ということで取り組んでいます。西土佐村は、山しかないところで森林組合が元気でないと地域の産業にとっても大変なことになりますので、職員、現場の労働者も含め、一生懸命やっていますが、大きな問題は、人材が足りず、各方面に色々な情報を出して、職員の募集をかけていますが、中々、集まらない状況です。森林組合単独では、人員確保が出来ないので地域を上げて協力をいただきたいと思っております。

事業に関しては、約４億円近い事業を毎年、やっておりまして、林産・造林共に事業量は、豊富ですが、機械の使用に関しては、非常に費用がかかりますので、利益が上げづらい構造になっており、何とか変えたく支援者含めて努力しいている状況です。

造林事業は、森林整備センターの方からの事業も増え、また四万十市の民有林の意向調査をやっていますが、その結果、再造林をしたい所有者もいると思いますので、それを含めて対応していきたいと思っておりますが、人が足りない状況ですので、これを克服して収益のある森林組合にしていきたいと思います。

（委員長）ありがとうございます。続きましてＨ委員、お願いします。

（Ｈ委員）担い手育成確保の関係ですが、平成 29 年度をピークに右肩下がりとなっていますが県の産業振興計画の取り組みとして、山で若者が働く全国有数の３大産地を目指す将来像の４本の柱の一つとして、担い手の育成確保について取り組みを進めています。

幡多林業事務所管内における令和３年度の林業就業者数は、454 人、年齢別では、60 代以上が 192 人、40 代以上が 182 人、30 代までが 80 人と、60 代以上が 42%以上と、このままでは高齢化により、離職が加速し担い手不足になることが予想されています。この課題に取り組むため、新しく担い手になられる方には、林業大学校でデジタル技術を活用した先進的な整備を図るとともに、林業事業体の整備の改善を支援して、林業職場の魅力化を図り、新規就業者の確保・定着率の向上のため、強化しているところです。

四万十市内における林業大学校の卒業の就業者数は、８名となっておりますが、受け入れていただいた事業体から、即戦力で今後も受入したいと聞いています。一方、家で苦労しているようで空き家は多数ありますが、知らない人は家がないとの声が聞こえています。UIJ ターンを含めまして対策として良い方法がないか模索しているところです。

もう一つは、再造林の推進計画を策定しましたが幡多地域においても、四万十ヒノキがございます。伐ったら植えて資源を更新していかなければならないこともありますので、造林事業も、幡多地域に沿った制度を模索しようかなと考えています。

（委員長）ありがとうございます。３名の委員の方から多くのご意見をいただきました。私なりにいくつかのトピックを上げると「ウサギ対策」のお話し、「四万十市はヒノキ日本一」と、つまりそれの有効活用、「再造林」のお話し、それから多くの人から出た人手不足、これに関しては空き家対策の話もありましたが、市として問題に対する受けとめ方とか、今後、検討されているものがあれば、ぜひご意見等いただきたいと思います。

（農林水産課長）ウサギの被害の状況は、把握しておりまして、有害鳥獣の報償金をそれぞれシカとかイノシシとかに出してきていますが、令和３年度からノウサギも対象に含めて報償金を支払い、数を抑えるというような取り組みは、実施しております。３年度の捕獲実績でいうと、中村地域、西佐土佐地域をあわせ 130 羽というような実績が上がっている状況で、継続して取り組んでいるような形です。

（委員長）ありがとうございました。その他、ございますか？

（副委員長）商工会議所の中で６部会ございまして、その中で建設工業部会から出た意見ですが、四万十産の木材を使うと最大 100 万円の補助がおりると話を聞きましたが、どうしても周知ができていない現状で、使う人が少ないと建築の関係の方々から聞いたのですが、現状はどういう状況でしょうか？

（農林水産課長）木造住宅の建築促進について戦略の柱２のところの市産材利用促進事業ですが、例年 30 件程度、3000 万円の予算を組んでいまして、一杯いっぱいの予算を使っている状況です。広報、ホームページで周知していますが、建築業者さんが大体、把握していますので、建築業者・設計業者さんには制度が行き渡っていると思います。

（副委員長）満額使っているということですか？聞いた話では、満額は使っていないと認識していました。

（農林水産課長）年によって増減はあり、コロナの影響を受けた時もありましたが、例年、満額使っているような状態です。

（委員長）ありがとうございました。Ｉ委員、家業の方でのご意見をお願いします。

（Ｉ委員）私は、製材業を生業としていまして、林業のことも商工会のことも、両方で意見は言えると思いますが、林業で言うと、製材業の立場としては、外に物を売っていきます。県外の消費地に向いて仕事をしていますが、感覚的な印象としては、四万十市は、内向きの仕事が多いと直感的に思っています。これだけの立派な資源があるわけですから、もう少し上手に他地域に PR できるのではないか、そういう余地はあると思います。

森林資源の価値というのは、出口の価値で山の価値が決まる部分もあると思います。木材製品の確固たる価値が認められないと、山の方にも価値が残っていかないと製材側からして、そういう感触があります。簡単に言えば、もったいないなという気がします。

（委員長）ありがとうございます。こういう言葉で言っていいのかわかりませんが、ブランディングといいますか、出口での価値を作っていくことが山の価値に繋がっていきますし、もう少しポテンシャルがあるのではないかということだと思いますが、そのあたりの認識はいかがでしょうか？

（農林水産課長）価値を市外にどう売り出していくかということは、現状の本市にとっての課題であると考えております。そのためにヒノキのブランド化推進協議会もありますが、そういった中で市外に出す方法も検討しながら、あるいは同時に PR だけではなく長伐期の施業の計画も検討しながら進めていきたいと考えております。

（委員長）ありがとうございます。新規の取り組みとして四万十ヒノキブランド化推進協議会のことも取り上げられていますが、こちらでも活発な議論をお願いします。

Ｊ委員、いかがでしょうか？

（Ｊ委員）私は、夏は観光のカヌーの仕事を、冬は小さな林業をしています。この二方面からみると観光の仕事は、どうしても夏に特化していまい今の時期は、ほとんど仕事がない状況です。うちに四万十川が大好きで惚れ込んでいる人が来てくれていますが、冬場の仕事がどうしてもなくて定着が難しいと言います。色々なお客さんに四万十川の良いところを紹介してくれたりする良い人ですが、そういう面を見ると、林業だけで増やす、観光だけで人を呼び込むだけではいけない。今の若い人は、多様性のあるような生き方を好む人が多いと思いますし、１年間同じ仕事で安定を求めるより、好きなことを自分の生き生きとやっていきたいという人が四万十にやってくる人は、多いと思います。

観光業は夏で、林業は冬が適期と思いますので、色々と考えなければならない面もあると思いますが、そういう併せたような動きで人を呼び込む手もあるのではないかと思います。それのお手本になれるように頑張っています。

（委員長）ありがとうございます。ただ今のご意見、人出獲得の中で多様な働き方・環境とセットでということです。ぜひそういった林業の人材獲得の視点だけでなくて人のライフスタイルにあった働き方などもご検討いただければと思います。

次の分野に移りたいともいます。水産分野の動きについて、事務局からお願いします。

事務局から資料１により、「水産分野」について説明

ありがとうございます。では水産分野についてです。この分野では、Ｋ委員、Ｌ委員、M委員にご意見等をいただきたいと思います。

【水産分野について】

（Ｋ委員）令和６年度から事業が進んでいく予定で非常に楽しみにしていますが、４年前から皆さんにもお願いをしてきていますが、非常に遅いなとも思っております。こういうことをするには時間がかかるとも思っていますが、もう少し早いスピードでやっていただくことをお願いしておきます。先ほど委員が言われたようにヒノキは高知県では四万十市が一番、四万十川は日本でも一番ということがありますから、きちっと利用していただき今後、計画を立てていただきたいと思います。

知事に出していただいているアユ王国ですが、８月に日曜市の横でアユを 4000 人の入場者の方に販売させていただきました。また西土佐で利き鮎会をやらせていただいきました。西土佐地域では、毎年、北海道の旭川の方へ 150～200kg のアユを持っていき販売させていただいています。今回は、小学校の子どもたちにアユを食べさせてはとの意見も出て小学生の皆さんに食べさせることもしていますが、一番考えることは、外国人の方が非常に地域に来てくれています。その対応ができていないように思いますので、地域に遊びに来た方にどういう風な対応をしたら喜ばれ、次のステップが踏め、また次のお客さんに来ていただくようにするにはどうしたらいいか、考えていくべきと思います。

今は携帯で対応することもできますが難しい面もありますので、それには小さい子供から大人の方でも、しゃべれたり、読めたり、話したり、簡単なことが出来るような方法を作ることが大事ではないかと思っています。

先ほど、山のウサギとかシカなど駆除・対策のことも言われましたが、我々もカワウの対策で困っています。市・県・国に取り上げてどういう対策をしていけばいいか考えていただきたいと思いますので、ぜひお願いします。今、四万十川では、水温が上がるなど状態が悪い状況が続いております。今、雨が少ないため、川の状態が悪化しているのが目に見えていますので、早い時期に環境改善に努めていただきたいことを重ねてお願いしておきたいと思います。

（委員長）ありがとうございました。続きましてＬ委員、いかがでしょうか？

（Ｌ委員）四万十川の内水面漁業は、第１種漁業の藻類となります。藻類は、四万十川で言えば、ヒトエグサ、アオサといいますが天然物は、ごくわずかです。そのほとんどが浮かし網の養殖で、色々、原因はあるかと思いますが、不作が続いており、ここ２年続きで漁獲量がゼロとなっております。もう一つの四万十川の特産でありましたスジアオノリは、全国の 96％のシェアを誇っていた天然アオノリですが、これは３年続きで収穫ゼロという形になっております。もう一つ四万十川では、第５種の漁業があり、第５種というのがアユとかウナギなどの魚の関係です。第１種がほぼゼロという中で、四万十川の漁業は、今は第５種だけとなります。ただ第５種の漁業は、非常に複雑で、資源量と

漁業生産力、流通と非常に密接に絡んでおります。

四万十川を代表するアユで言えば、昭和 40 年から 50 年ごろは１年間の生産量が平均で 800ｔから 1,000ｔありました。これは農林統計の数値ですが、その頃の漁獲量の集約の仕方も違っていまして、正確には反映されていませんが、現在は、30ｔ～50ｔを行き来しています。確かに資源量は減りました。ですが、ここがややこしいところで、800ｔの漁獲量があった時には、100％地産地消です。県外に売りさばいたという記録もございませんし、ほとんどが地元で消費されていた水産物です。生活様式の違いも随分あったと思いますが、今、若い方でアユを食べる方はそれほどいません。子どもたちにアユを出しても箸をつけないというような状況です。今は流通が良くなりましたので県外にも出せるのですが、県外、どこの河川も地域自慢のアユを持っていまして、中々、売りにくいことがあります。一部は、ネット販売や注文販売をしているところもありますが、それはごくわずかで、今でもほとんどは地場消費です。

地場消費を拡大するには、県外の人が流れてこないとアユは売れません。今はわずか 50ｔのアユの生産しかできませんが、その 50ｔをさばき切れない。市場の値段も当初１kg 単価が 4,000 円ぐらいしていたものが、ちょっと荷が入りだすと 1,000 円ぐらいに落ちます。このような状況の中で漁業を維持していくのは、中々、難しいことです。

やたら資源量を増やせば、就業する勤労意欲が増して、漁業者が一生懸命働いたら産業が潤うかといえば、そういう種類の産業でなくなって来ています。これからの内水面漁業は、他の産業と関りあった中で成長していかないと独自では無理なところもあります。そういう課題を克服しながら、ほそぼそとでも生きていかないといけません。

内水面漁業は、随分と広域性とか公共性のある漁業です。内水面は、地域の生活圏の中に漁場が存在するわけで、庭先の漁業ですから環境の保全もしなければならない、自然の保護もしなければならない、資源を守っていかなければならない、増殖もしないといけないこともあり、欠かすことのできない漁業の一つになっています。ですから産業とうまくマッチさせながら成長していくというのが、これからの内水面漁業と思います。

（委員長）ありがとうございます。たくさんのご指摘をいただきました。では、M委員お願いします。

（M委員）ヒトエグサのこと、スジアオノリのことをお話ししていただきましたが、私ども組合がやっているのはこの２つです。グラフにもありますようにスジアオノリはゼロとなっていますが、これを見たときに中には、こういう風に取れないのならやめようかとか、来年から考えますとか、既に就業をやめて転職された方もかなりいます。高知大学からも、今年もノリのつき具合があまりよくないとのご返答もいただきました。そういったことを鑑みますと、これから組合は存続できるのかという危機感を持っておりまして、市の方に再三お願いして、復興プロジェクトの立ち上げを検討しております。

資料に新規組織の設立と書いていますが、この中に入れてもらえる形で、プロジェクトを考えています。以前、アオノリについて調べてみましたら昭和 53 年度から今年５年度で収穫量が、ピーク時の昭和 57 年に 50ｔ獲れていました。いくら取れても販売単価がありますので、販売の額を調べてみますと 18 年度に２億 1,500 万ぐらい獲れておりま

した。19年も２億円獲れていて、それ以降右肩下がりで今はゼロです。こういった莫大な資源があったにも関わらず、何の原因かわかりませんが、ノリが獲れていない。

組合員も高齢化しており、新規にやりたいという方も中々、出てきませんが、組合としても存続してさせていくため、市にお願いをしながら取り組んでおります。単独でプロジェクトを考えていましたが、一組合では、これを取り上げて以前のような活気のある分野にしていくのは難しいということもあり、皆さんのお知恵を借りながら、昔に近い、冬になれば四万十川の河口域が碧い岩で染まるという風にしていきたいと考えています。

以前は、文献を読んでみますと、今の動力は船外機ですが、昔は櫓で船を漕いでいました。その時に獲った翌日、櫓にノリが絡まって進めないという夢物語みたいなことも書いております。なんとか下流組合としてプロジェクトの中でも、皆様にお知恵を借りながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

（委員長）ありがとうございます。続きましてＮ委員いかがでしょう？

（Ｎ委員）アユに関しては、例年、一定の量の放流がなされて、遊漁券が配られ回収される形で全体が周っていますが、アユが獲れるか獲れないのかは、一つは天然の資源量、そして追加する人工の資源量、その後、河川環境が相まって、計画どおりには進まないところがありますが、アユ自体、かなりパワーを持った生き物で、うまくいかない年があっても、うまくいく年もあります。資源量は、ある程度のラインから減らず一定のところを保っていますので、毎年、変動はあるものの、これをつぶさないように、うまくやっていくことが大事と思います。

売っていくところでいきますと観光と連動しているところはありますので、県のアユ王国の取り組みと連携して、できるだけ県外からのお客を誘致したり、県外へアユ自体を送ることを続けていきたいと考えています。

スジアオノリの方ですが、今、原因がわからないところで、言われていることをあげていけば、一つは降水量です。もう一つは、砂州で塩分の変化が大きくなったこと、その他では、シオミドロなどの競合生物が増えてきており、あとは濁りです。種苗生産もうまくいっていないのではとの話もありましたが、注目しているのは人工栽培の技術の安定、もう一つは、人為的に管理できるところの改善をしていこうという風に関わっています。今年、種苗生産の方に絡み、データ取り、マニュアルの改善に向けて取り組んでいます。

もう一つオキダシの方は、シオミドロと汚泥の対策としまして酸処理とか、高圧洗浄機を使った洗浄を導入して対策できないか検証しています。大体、そういった形のところで対応していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

（委員長）ありがとうございます。多くの意見をいただきました。私なりにいくつかに分類しますと「アユ王国との連動」のお話し、「カワウの対策」、「スジアオノリの減少による川漁師さんの離職」、「組合の存続」のお話もございました。アユに関しては、漁業者の方だけではなく色々な産業の方との関りというのが、今求められているとのご意見もあったと思います。事務局の受け取り方や検討事項等があればお伺いしたいと思います。

（農林水産課長）河川調査、環境改善に向けた新組織設立に向けた検討ということで、12月に四万十川漁業振興協議会と四万十川保全機構が共同で流域市町村の協力も得ながら、県・国の旗振りも受けながら取り組みもしていきたいということで、県の方へ要望に行く段取りとなっております。あとスジアオノリ、アオサの件ですが、地球規模の環境の変化ということで色々、影響が出ていると思われますが、県への要望と並行して、通常の川での養殖以外のその他の方法・手段として陸上養殖の支援をしていくという形を取らせていただいています。陸上養殖の推進に関しては下流漁協さんの協力も得ながら、技術提供等も得ながら並行して進めて、スジアオノリの漁獲量ゼロということ、そこを打開していくような手立てを打っていく取り組みをしているところです。

（観光商工課長）今回、食というところでアユの推進、観光客の誘客という話もございましたので取り組みを紹介させていただきますと、観光商工課も、大きな柱としては、滞在型の観光推進とインバウンド、大きく２つを目指して推進しています。その中で宿泊していただいて食事をしていただくところで、しっかりと地域の消費、観光商品に繋げていきたく、色々、進めております。観光パンフレットとかでは、食の紹介であるとか、食に特化した日本語、英語、中国語で表記した食の番付とかも作りながら、それぞれPRをしながら観光誘客に努めて行きたいと思っております。

（委員長）ありがとうございました。アユのことだけ一言、言わせてください。７月一杯、都内でアユを売っていたのですが、アユの需要はあるものの、食べる人やさばく人とアユを出荷する人の認識のギャップが非常に大きなということを実感して帰ってきました。端的に言うと、売り場があれば、「生」とか「活き」という言葉を書くと売り上げが２割アップします。それが欲しいのですが品質の保持や歩留まりのことを考えると出荷があわず、冷凍をする。あとは実際にアユを受け取っても中々、調理できない。お客さんは沢山いるのですが、調理法を知らない。そこに関して翻訳家は要ると実感しました。

他県の事例を見ましても、アユに関わる産業は、新しいプレイヤーが参画をして産業を新しく構築しているという事例が多々、見受けられます。それは食に関しても、体験型観光にしても同じで、他に人にも関わっていただきたいというご意見だと思いますが、新しいプレイヤーと従来のプレイヤーとのタッグの中で出てくるスタイルでしたり、届け方が新たに出来てきていると思います。

林業だけでなく観光だけでなくとの話もありましたが、そういった方々を巻き込みながらアユの価値づくりを進められるのではないか、ぜひご検討をお願いしますし、間もなく高知県のアユ振興ビジョンのパブコメのページに入ると思いますので、注視してご意見いただければと思います。高知県さんだけでアユ王国振興ビジョンを進めていくのではなく、どちらかといえば、現場の皆様の後方支援していくビジョンになるのだと思いますので、積極的に、こんなことをやりたいとか挑戦的なご提案をアユ王国振興ビジョンにも出していただいて連携を深めていただきたいと思います。

次の議題に移っていきたいと思います。商工業分野と観光分野を一気にお願いします。

事務局から資料１により、「商工業・観光分野」について説明

【商工業・観光分野について】

（委員長）ありがとうございました。商工業と観光分野で委員の方々にご意見・ご質問をいただきたいと思います。副委員長、Ｉ委員、Ｏ委員、Ｐ委員、Ｑ委員、Ｒ委員、ご質問等あればお願いします。

（副委員長）コロナが５月 20 日以降、５類の方に移行し、街中の特に飲食店関係は、大分、戻ってきているようです。先ほども発言がありましたが地域の飲食業の方で価格転嫁ができているところ、大きい店は、比較的、進んできているところですが、商工会議所の委員会の小売・サービス部会の中で従業員の給料をあげたいけれども、中々、材料等が高騰して価格転嫁が進んでいないところも数多くあるというご意見が出ておりました。

商工会議所としても同じような時期に上げていけるようなシステムを、各事業所の方に指導をしていかなければいけないと思っているところでございます。また零細企業がこの地域は多いものですから、コロナ融資を受けたところで２割くらいのところが、これから返済が始まり、どうしても厳しいところがあるということです。この１、２年が勝負になってくるのかなという風に感じていますが、その部分もこれからが更なる困ったところに対しての補助を考えているところも出てくるのかなと思っております。

また先ほどからお話しを聞いて思ったことは、地産外商ということですが、やはり最初に地産地消があって、次に地産外商というのがこなくてはいけないので、地域のモノは、地域で消費をしていくという考え方を皆さんに植え付けていくということも必要になってくるのかなという風に思います。

今、プレミアム付商品券を商工会議所の方でもやらさせていただいております。基本的には地域のところでしか使えないということですが、そういうものを使わなくても消費ができるという形をこれから徐々に整えていき、周知をして、余分なことをしなくて、商店側もお客側もお互いがそういう意識でやっていく部分、考え方を前面に出していきながら消費を促していくのは非常に重要になってくるのかなという風に感じたので発言をさせていただきました。

（委員長）ありがとうございます。続きましてＩ委員、お願いします。

（Ｉ委員）商工会としましては、地域の人々が商工会とは何か知らないという人が多いのが分かったことでもあります。商工会は、本体の方は昭和 42 年ぐらいに設立されまして、地域の小規模事業者に対して経営支援を行っていて、合併して四万十市西土佐商工会となりました。主な仕事の内容は、地域に対して外から資金を呼びこむ力をつける。そして、その資金を地域内で循環させる力をつける。その力を活かすための人材を育成する。その地域の小規模事業者の経営支援を中心的に行っているのが商工会であります。

経営支援というのは、事業者の足腰を固めていって、自力を高めて地域内の産業の連携を高めていく、併せて対外的に情報を発信の強化もして、その地域の魅力をどんどん勧めていこうということを日々、やっているのですが、コロナによってかなりの打撃を受けた中でも、商店とか飲食店は、ほぼ戻ってきているような雰囲気はあるようです。

消費喚起策として商工会独自の財源を使って、西土佐地域のみで使えるプレミア商品

券を商工会で発行しました。市のプレミアム付商品券と併せて、まずは地域の中で地域の人にお金を使っていただこうと考えて、これから助走をして勢いをつけようという感じでやっております。

また商工会は、圧倒的に抱えている事業が多く、簡単に言えば人手が足りないところがあり、昨年から支所にお願いして地域おこし協力隊に10月から勤務していただくことになりました。小規模事業者を支援する本来の事業に加えて、地域のイベントといえば商工会みたいなところがあり、かなり人手を取られる中で、本当にしたいこともやらなければならない中で足りないところを地域おこし協力隊にお願いするのですが、対外的なPR、イベントに関わることや、SNSに関わることなど発信力を強化していくことをやっております。その事業を頑張ってやっている、地域の底支えをしている団体という軸がありますので、そのあたりも、くみ取ってもらい行政からの支援も含めてお願いしていきたいなというところが商工会としての立場であります。

（委員長）ありがとうございます。続きましてＯ委員、お願いします。

（Ｏ委員）私は、商店街としての意見でございますが、街の中に人が帰ってくるかなと期待していましたが、その最中に中心地のマルナカが閉店しました。影響はかなりありまして、人が本当に歩いておりません。これだけ影響が出たのかなと肌で感じております。私たち、一生懸命、街中で活性化ということでイベント等もやりますが、そのイベントの時には、必ず人にたくさん出てきていただけます。いかに皆さん、何かをやってほしいと、市民が願っていると感じますが、イベントが無ければ、人が出てきていない。

先日も、イベントをやっていただき、たくさんの人に出てきていただきましたが、帰りに天神橋から一条通を覗いていただいたらよく分かりますが、歩いている人が本当にいません。大橋通は、車の交通ばかりで歩いている人はいません。

ですが、第３次産業の年間売上高、それほどは落ち込んでいないと思いますが、よく聞くと具同地区の量販店、そして古津賀地区の量販店が、コロナ前の状況に戻って、大体、売り上げは戻ってきたという話を聞きます。これから全体では、第３次産業の売上等は、それほど落ちないと思いますが、街中での第３次産業は、少し落ちてきているのではないかと思います。戦略の柱２の中にある、文化センター複合施設が右山にできます。そちらに行きますと確かに賑やかになるとは思いますが、私たち６商店街の中には入っていないわけです。本来なら商店街で右山にも商店街振興組合があったのですが、今、休止状態でして、通行量調査には表れないと思います。今年の12月に通行量調査をするのですが、かなり落ち込んでいるのではないかという心配をしております。何はともあれ、街中のマルナカの後に誰か商売をしてみよう、チャレンジしてみようという方がいましたら、ぜひ手を挙げていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

（委員長）ありがとうございます。続きまして観光分野についてＰ委員、いかがでしょう。

（Ｐ委員）観光と言うと、四万十では、大きくホテル業と屋形船、西土佐の方では、道の駅とかいう感じになると思いますが、私の見る視点で、カヌーの体験とかキャンプになっ

てしまいますが、コロナ禍を脱出できて、戻ってきたかというとそうではない。数字的にも全然、戻ってきていないし、これからコロナ前の数字に戻るのかといった時に現状から行くと、そこまで戻ってくるのかなというと正直、不安なところがあります。

割とテレビで、高知なら四万十の方に来ていましたが、仁淀ブルーというのもありますし、ここ数年、カヌーに来てくれる人に聞いてみると、仁淀に寄って、その後、四万十にきたという感じの人の声を聞きます。今まで一択の四万十というのがありましたが、これからは色々な場所に散らばっていくし、キャンプ場も出来てきているので、コロナ前の状態まで戻ってくるのかというと、それはちょっとどうかというふうに感じています。来ても見るところがどうしても、四万十と沈下橋というふうになりますが、その時に駐車場がない。道の駅もそうですし、駐車場がないのでスルーしてしまうのではないかなというところがあります。今は、道も良くなってきているので、何時間もそこにいるというのは難しいと思います。それを少しでも引き延ばすのは、やはり駐車場があり、体験物など色々、あると思いますが、そのへんをやっていかなければと思っています。

10 年、15 年前は、その場所に行って、一日、遊んでくれていたのが、５、６年ほど前からは、３時間くらい体験して、次の愛媛県なり、高知市内に行くという感じになり、それからまた少し時間短縮型になっているのではないかと思っています。

外国人も、ここ１、２ケ月、多いという感覚を受けますが、時間的なものが合わなくて、体験等をせずにそのまま行くという感じになっているので、色々な面で人手がいないというのもあるし、全ての面があまり良い状況にないというのがあります。これから少しずつは回復していくとは思いますが、それに向けて対策しなければならない。今年は、８月にこれだけ増水してしまい、月の半分くらい仕事ができたくらいの状態ですので、あまり良い状態ではありませんでした。これは状態を良くしても天気次第のところがあるので、一概に良かった悪かったとはなんとも言えないところはあります。

（委員長）ありがとうございます。ではＱ委員、お願いします。

（Ｑ委員）本日の説明では、県の産業振興計画の地域アクションプランで関わらせていただいている事業も多くあります。例えば、今年度、新規で書かれてある地元食材を活用した加工品の開発や、中心市街地・商店街の活性化の取り組みも県のアクションプランとして関わらせていただいているところです。商店街の方々は、イベントをやったりして頑張っていますが、数字として通行量が減っているため、少しコロナの影響もあるのかなと思いつつも、何とかしなければならない。具体的に何をすればいいかと、解決策が分かればいいのですが、中々、それが見えないところで、色々な手を打っていくしかないのかなというふうに考えているところです。

観光の取り組み等と一緒になって色々な取り組みを考えていかなければならないのではと思うのですが、例えば１次産業、２次産業、３次産業の色々な事業者さんがおられると思いますが、体験するイベント、体験する観光の産業、そこに食べるものや、地元の四万十川とか、良いものがありますので、そういったものを組み合わせてやっていく。ここに代表として出てきてくださっている方々に、より協力していただきながら、PR の仕方とか情報発信とかが今後、重要になってくるかと思います。

会の中でもインバウンドという言葉が何回か出てきております。他の県からも、今後、どんどん入ってくるのではと私は、思っています。外国からもどんどん来るかと思いますので、インバウンド対応や、そういった方々に向けての情報発信が求められているかと思いますので、セミナーとかがありますとか連絡させていただきたいと思いますので、ぜひ四万十市、それから幡多全体で協力しながら色々なことができたらと思いますので、よろしくお願いします。

最後に、県では来年度、新しい産業振興計画を作るために、色々な取り組みを集めております。資料に書かれている取り組みについても、ぜひお声がけをいただければ、もしかしたら各産業分野、農業分野や林業分野でフォローさせていただくこともあるかもしれませんし、地域アクションプランとして位置づけさせていただくなど、色々な方向があろうかとも思いますが、色々な支援策を県全体でやっていきたいと思いますので、何かありましたら県の産業振興推進部の幡多地域本部までご連絡いただけたらと思います。よろしくお願いします。

（委員長）ありがとうございます。我こそ、アクションプランだという方は、Q委員に連絡をお願いします。それでは最後にR委員、お願いします。

（R委員）私は、一般として入らせていただいていますが、勉強をさせていただくために座らせていただいているとは思っています。街中で電気屋という商売をさせていただいていますので、そればかりをしていたら林業のことや、川のことも、山のことも知らない、他の分野のことを一切、知らなかったと思います。その中でもちろん人も知らないという分野で、ここに座らせていただけるだけで、すごく勉強になったと思っています。

街中には、ものすごく歴史のあるお店が並んでいます。そこをとにかくお客さんに知ってもらいたい。食器屋があり、お肉屋があり、お魚屋があり、結構、街中には色々な職種が揃っているのですが、お客さんは知らないのですね。特に若い方は、大きいところに行ってパッと済ます、今はネットの時代なのでネットで買い物をする。でも最終的に人と対面して会話をしながら、モノの良さを知ってもらいながら、お買い物をすることの楽しさも知ってもらいたいし、街中にこんなに素敵なお店があるのだと知ってもらいたいがためのイベントとして、10 月 22 日に大抽選会を一條神社のところでおまち中村超得スタンプラリーというイベントを開催せていただきました。

去年度、抽選会に来た人が約 200 人、今期はちょっとだけ増えて 220 人くらい来てくれました。やはり楽しみを待ってくれているのではないかなと思っています。今、何十代の方が多かったかとか、参加店の方のご意見を集約中なので、ここでの報告は出来かねますが、継続して、とにかくおまちを元気にするための一つの方策として、皆で続けていけたらいいなというのが感想です。

もう一つは、この間、あるところで貴重なゴリをいただいきましたが、保存方法を全く知りませんでした。直ぐにたくさん食べられるものではないので、こうやって冷凍しておけば臭みもなくいいよと教わり、本当にそのとおりに冷凍してみました。ある時、子供たちに食べさせられる機会があって、商工会の女性部の方で、小学生にそのゴリを使って唐揚げを食べてもらいました。実際に私は、その場にいなかったのですが、子どもたち

が美味しいと言って食べてくれたとお聞きしています。地元の子どもたちにアユでもゴリでも、ここの特産物を食べてもらえるような機会を何とか作れないか、今、給食もあるので子供たち全員にアユをとかいうのは難しいかもしれませんが、今年は、この学校でとか、来年は、この学校でとか、何か繋がっていって工夫をして、次につながる子供たちにも地元の食材を誇れるし、好きになってもらえるような企画も頭の隅に入れていただき、皆で盛り上げるという繋がりが大事かなという意見を持っています。

（Ｌ委員）委員長、関連して構いませんか？

（委員長）はい。

（Ｌ委員）四万十川に、せっかく誇れるものがあるのに若い人は知らないという状況の中で色々、漁協も努力しています。菜の花まつりというイベントが３月にありますが、そこで漁協がゴリの唐揚げの無料配布を行ったら、人だかりで大変な人気でした。今度、小学校の食育の関係で四万十の幸を自然的に獲り、使ってみる取り組みと環境学習も併せてやり、その中でアユの料理とか、モクズガニをたくさん獲ってそういった食材を子どもさんに試験的に賞味していただくような取り組みを進めております。行政にもぜひバックアップしていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

（委員長）ぜひ連携していただければと思います。よろしくお願いします。時間は来ていますが、商工業・観光でいただいたご意見、キーワードとしては、「プレミアム商品券」の話し、「商店街の通行者減」、「もっと知ってもらいたい」という話もございました。それから文化複合施設が令和６年度に開業するにあたり、「商店街との連携」の話しもあったかと思います。それでコロナ前に戻ってきたと飲食業の話しがある一方でアウトドア業に関しては、十分ではないことや、整備過多で競合がでてきて、厳しい面もあるとの話しもありました。インバウンドの地域への適合性のご意見がありましたが、事務局の方から何か受け止め方や、対応があればお願いできればと思います。

（観光商工課長）商店街の活性化振興ですが、観光商工課として、地域おこし協力隊を配置しまして商店街の皆様と一緒に色々な検討をさせていただいています。昨年、今年とリーダーシップセミナーということで、商店街の核となる人に地域おこし協力隊がこれまで勉強してきたことなどをお話ししていただいているのですが、地域の商店街などの人材として活躍してもらえるように皆で勉強しています。今後、来年４月の文化複合施設開館に向け、セミナーを受けた方々とか、商店街の方々と一緒に協議をして仕組みづくり、取り組みづくりをしていきたいと考えています。

観光についてですが、宿泊については、資料３の方を見ていただくと、令和４年度は、23 万人泊ぐらいあります。これは令和元年度についで、ここ最近では２番目の数字で、昨年、国の全国支援であるとか、市の観光クーポン事業の効果もあったと思いますが、かなり宿泊には繋がってきていると思っています。これも引き続き、滞在型観光をしっかりできるように増やしていき、食の提供とかに繋がれば、１次産業の活性化にも繋がっ

ていくと考えています。ただ平成30年では、外国人の宿泊客が約8,000人泊ぐらいありました。まだそこが帰ってきていないので、しっかり、やっていきたいと思っています。

四万十市観光協会さんは、観光再始動ということで、四万十川の生態系を探求する、学ぶ観光学習であるとか、川漁の体験、自分で獲って、それを料理して食べるところで数日間、四万十市に滞在して、四万十市を楽しんでいただきたいというツアーを検討しています。９月末にモデルツアーをやりましてシンガポール、マレーシア、台湾から10名の方に来ていただきました。今後、しっかりとした商品に作り上げて売っていくということを取り組んでいます。幡多広域観光協議会についても、インバウンド対策、体験プログラムの造成などを共同しながらやっていきたいと思います。

あと食ですが、ガストロノミーウオーキングをやっています。毎年３月頭にやっていますが、昨年度の取り組みについて、ガストロノミー賞を受賞させていただきました。来ていただいた方のアンケートに基づくものになるので、四万十市の食というものは、すごく評価されているということが分かりました。ここも食というところでしっかりとやっていきたいと思っています。

それから商工の方ですけれども、県の補助事業を使わせていただき、今年、加工施設の整備をしていただいている事業者さんがおられます。今の工場が少し手狭で、取引機会での損失が生まれているということから新工場、加工施設の整備ということになるのですが、しっかりと高知県、特に四万十市の食材、特産品を使った商品を開発して販売していきたいという思いでやられています。１次産業の皆様方と一緒に連携しながらやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

（委員長）ありがとうございました。私の方から台湾の件で１点だけ。台湾の大学と日本の大学の連盟を組んで、私ども幹事校をやらせていただいています。明日から台湾に行って展示会で高知大学のブースを出展するのですが、その場でもこちらの観光、高知県の観光についても宣伝していくのですが、私どもが、これからやろうとしている取り組み１点だけ、みなさんと関りがあることをご紹介したいと思います。

台湾の大学生が高知の宿泊業にインターンシップするプログラムを始めようとしています。説明会を11月22日に台湾の大学でやろうとしていますが、そこに旅館業の方々に説明会で説明していただき、そこに我々、高知大学も加わせていただいて台湾の学生と観光を繋いでいくことをやってまいります。こういった形で台湾のことにつきましては、ちょっとだけでも関わりが持てればと思ってやっておりますので、何かありましたら、お声がけいただければと思います。

先ほどゴリの話しもありましたけれど、アユの事で１点、四万十市は違うかもしれませんが、高知市でアユを食べたいといっても、アユをどこで食べていいか、どこで買ったらいいか、分かりません。観光客の方は、なおさらだと思います。カツオはどこでもいけます。ひろめ市場にいけば、必ず食べれます。アユを食べたいなら、ここというところが市内にはありません。ぜひ出展を願っています。以上、アユ王国の宣伝でございました。それでは、予定していた議題は以上です。その他の件で事務局、ありますか？

4　その他

・産業建設課長から産業祭について案内

・事務局より会議録作成の次期と次回の開催予定の案内

5　閉会

（副委員長）どうも皆様、お疲れ様でございました。長時間にわたり、色々なご意見を頂戴いたしまして、ありがとうございます。これからの取り組みの方に、ぜひ反映させていっていただきたいなという風に思うのと、また目標が達成できるように、これから会を進めていけたらという風に思います。

これから 10 年後、20 年後、30 年後、必ず高速道路も中村まで来るようになります。その時に幡多の中心である、この中村が、皆さんに高速道路を下りていただいて、寄っていただける街というのを作っていくということが、大きなフォローアップ委員会の目標ではないかと思っておりますので、ぜひとも、未来の子どもたちのためにも、今の状態から更に進化した四万十市を作っていくということが重要ではないかという風に思っておりますので、今後とも、色々、ご指導のほどよろしくお願いします。本日は、どうもご苦労様でございました。

別紙

第１回四万十市産業振興計画フォローアップ委員会　出欠表

区分	氏名	所属	役職	備考
産業関係団体	長尾　理夫	高知県農業協同組合	幡多地区総務・経済担当常務	
	福留　宣彦	四万十市農業委員会	会長	〈欠席〉
	宮本　昌博	中村市森林組合	代表理事組合長	
	山﨑　一夫	西土佐村森林組合	代表理事組合長	
	中野　正高	四万十市建築協会	会長	〈欠席〉
	沖　　辰巳	四万十川下流漁業協同組合	代表理事組合長	（代理）副組合長 浜口　貞雄
	大木　正行	四万十川中央漁業協同組合	代表理事組合長	
	金谷　光人	四万十川西部漁業協同組合	代表理事組合長	
	藤田　豊作	下田漁業協同組合	代表理事組合長	〈欠席〉
	佐田　　博	中村商工会議所	会頭	
	上村　賢介	四万十市西土佐商工会	会長	
	土居　愛明	四万十市商店街振興組合連合会	代表理事	
	福原　紀夫	四万十市建設協会	会長	〈欠席〉
	小松　昭二	（一社）四万十市観光協会	会長	〈欠席〉
		四万十黒潮旅館組合	組合長	
	田辺　篤史	（株）西土佐四万十観光社	取締役専務	
有識者	岡村　健志	国立大学法人　高知大学 次世代地域創造センター	准教授・UBC （地域コーディネータ）	
	鳥海　素直	四万十市金融協会	会長 （四国銀行中村支店長）	
	西田　勝詞	四万十公共職業安定所	所長	
関係行政機関	山下　英治	高知県産業振興推進部	地域産業振興監	
	山﨑　　栄	高知県幡多農業振興センター	所長	
	河渕　昭人	高知県幡多林業事務所	所長	
	石川　　徹	高知県土佐清水漁業指導所	所長	
一般	乾　　梢			
	稲田　玲子			
	谷吉　　梢			